



私達の学校の東端の旧金比羅街道の道跡には、232本のクヌギの木がそびえ立っています。このクヌギ林に見守られ、新緑の美しさ、木陰の涼しさ、たくさんのどんぐりに、私達は季節を感じています。そして、この自然を大切にしています。「東温石けん」は、私達のこのクヌギ林への思いと、クヌギの葉が入った自信作です。「そやけん この夏あなたもモチモチの泡、試してみてもいいよ。」(平成23年度 第4回全国商い甲子園大会での東温高校 テーマの説明)

ビジネス実習

「東温石けん」は、販売を開始して3年目になります。この商品は、商業科3年の選択科目である『ビジネス実習』という授業の中で生まれました。

『ビジネス実習』は、キャリア教育の一環として、長期インターンシップや企業活動に関わりながら課題に取り組み、一人一人が今の自分ない力を身に付けていく授業です。そして、2月に1年間の活動報告を、商業科の生徒全員に対して行います。それは、商業科全員がビジネス実習の活動内容を理解し、自分の生活を振り返り、見直していくためです。

受け継ぐもの、引き継ぐこと、私達の商品開発「東温石けん」

東温石けん誕生

商品が誕生した平成22年、私は高校に入学しました。実習企業には、遠赤青汁(株)があり、実習のテーマは、会社が持っている技術や商品を使って、新しい商品を考えることでした。実習には2人の先輩が取り組みました。先輩は、東温高校のシンボリック存在である「クヌギの葉」を入れた石けんを開発したい。「これは私達にしかできない」と思ったそうです。すでに梅雨入りしていた6月末、雨の中でクヌギの葉を取り、7月



今年のクヌギの葉っぱ



愛媛県立東温高等学校 商業科 谷口 藍

特集 2



には石けんの試作品ができました。

そのモニター募集が私と石けんの出会いでした。私は「東温高校のためになるなら」という気持ちで、アンケートに答えました。100名のモニターアンケートで、大きな肌トラブルはなく、全体的に良い評価を得ました。その後、ネーミングは「東温石けん」と決まり、イメージキャラクターを考え、パッケージデザインを決め、8月末に商品が完成しました。〜「クヌギ入りの泡はモチモチで弾力あり、スツキリ洗顔」「合成着色料・香料・保存料を一切使用していない純石けん」「海塩配合でミネラル補給」「圧力で固めて作って結核長持ち」〜9月から11月にかけて、学校の文化祭や各種のイベントで、販売活動が行われました。2人の先輩は、「2人しかいないのだから、2人でやらないと企画は進まない」という思いで、必死に活動したそうです。

東温石けん県外進出 商い甲子園

私は2年生になり、「東温石けん」は、次の学年に受け継がれました。その年の遠赤



松山城山門前まつり



東温石けんの誕生

箱入りにしたパッケージ



青汁(糊)への実習は4人でした。「東温石けん」の改良と販売の充実」を実習課題とし、「商い甲子園に参加して優勝する」という目標が決まりました。

商い甲子園は、三菱グループの創始者である岩崎弥太郎の誕生地の高知県安芸市で開催されます。高校生が集い、岩崎弥太郎に負けないように

に商売の腕を競い合うことで、地元商店街の活性化を図り「商い」の面白さや大変さを学ぶものです。持ち寄った商品は、3時間の制限時間内に販売し、販売個数や売上よりも「商品・ディスプレイ・接客・独創性・テーマ性や高校生らしさ」が審査されます。東温高校は、第1回大会に唯一県外から参加した学校で2年ぶり3回目の出場でした。参加者9人を選抜し、チーム名は「K.N.G.」高校生が日本を元気にする「K.N.G.」には、3月11日に起きた東日本大震災の復興に向け、元気を届けようという思いが込められていました。

この活躍を聞いたとき、私ほとても興味が湧き、「やりがいがありそう、今より成長できるはず」と思いました。商い甲子園での活躍は、マスコミにも取り上げていただき、「東温石けん」の知名度は一気に上がりました。



商い甲子園店舗

パッケージを箱に替え、クヌギのイメージカラーを緑と決め、エプロンとテントの屋根の色を統一しました。夏休みも返上して発声練習や地元の産直市場「あさつゆマルシェ」での販売練習を行い、接客技術の向上を目指しました。その結果商い甲子園では、審査員長特別賞と最優秀賞である岩崎弥太郎賞のダブル受賞という快挙を果たしました。

東温石けん 飛躍の年

私は3年生になり、迷わずビジネス実習を希望しました。速赤青汁(糊)の実習は8名です。今年は「後輩に何が残せるのか」が課題です。先輩が残してくれた「東温石けん」と昨年の実績を踏まえ、新商品のモニターテスト、パッケージの見直し、マスコットの検討、店舗設計、販



もぎたてテレビの取材

売技術の向上、販売戦略、宣伝活動：：やりたいことがたくさんあります。活動を充実させ後輩に引き継いでいくことも、私達の課題であり大きな使命だと思えます。「藍」という私の名前は「青は藍より出でて藍より青し」ということわざから付けられました。この名前の通りに、先輩方を超えられるようになりたいです。私達らしさや私達の思いも込めて、みんなに親しんで使ってもらえる商品作りをしたいです。

最後に

私達の商品開発は、時間も機動力も無限大ではありません。限られた中で、精一杯どうできるかを考え、実行していきます。応援してくれる卒業生や地域の方々、お忙しい中、私達の活動に協力して下さいる企業の存在も忘れません。また、「東温石けん」を愛用して下さい下さったお客様や、感想のハガキを送って下さったお客様や、感謝の大切にします。「東温石けん」を通じて、心の通う活動をしたと思います。結果が出なければ経営が行き詰まる厳しい社会の現実と比べれば、私達の活動はまだまだです。ただ、東温高校で学んだ一人として、この商品開発に関わってくださった人やお客様とのご縁を大切にしながら、受け継いだものをしっかりと引き継いでいきたいと考えています。